



TITLE:

岩本ゼミ2, 3回生年間活動報告

AUTHOR(S):

岡崎, 将也

CITATION:

岡崎, 将也. 岩本ゼミ2, 3回生年間活動報告. 岩本ゼミナール機関誌 1998, 2: 129-131

ISSUE DATE:

1998-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56840>

RIGHT:

岩本ゼミ2, 3回生年間活動報告

文責：岡崎 将也

岩本ゼミもついに4年目を迎えるにあたってようやくゼミ活動のフレームワークが定着しつつあるように思われます。本年度のゼミのテーマとしては、従来のゼミ方式を踏襲しつつ勉強内容の拡充、インゼミでの勝利、熱意ある新規ゼミ生の大量採用を行い、岩本ゼミの更なる発展を目指しました。以下に本年度のゼミ内容を簡潔に記していきます。今後のゼミ活動の指針になれば幸いですし、引き続き活気あるゼミの運営が継続されていくことを願っております。

※ 春の社会見学…今年は4月7日の肌寒い中、2, 3回生は事前に勉強会、4回生は金融関連の小説などで各自、予め知識をつけたうえで、大阪の北浜に大阪証券取引所及び大和銀行、野村證券のディーリングルームを見学、それぞれの担当者に現場の説明を受ける。質疑応答の後、貨幣資料館、証券広報センターを見学、夜には案内役を務めていただいた伊豆さんをまじえてコンパ、ゼミ生一同、厳しい金融の現状について実感した1日となった。{勉強会用文献：津村英文著『証券市場論入門』（有斐閣双書）、細金正人著『兜町の40年』（中公新書）、奥村宏著『株価のからくり』（教養文庫）など}

※ 通常ゼミ（前期）…去年の国際貿易に代わって、今年は国際マクロ経済学を基礎より学んでいくこととなった。テキストにはN・グレゴリー・マンキュー著『マクロ経済学Ⅰ入門編』、『マクロ経済学Ⅱ応用編』（東洋経済新報社）が用いられ、4月から11月までゼミ生で分担し発表する形式がとられた。更に今年から日頃、新聞、雑誌の記事などで興味をもった事項について隔週で担当のゼミ生が一人で研究、発表する“トピック”という形式も採用、過去の事例だけでなくタイムリーな問題についての意識をゼミ内で喚起することとなった。詳細な日程と具体的な内容は以下の通り、

日付	テキスト内容	トピック内容
4/15	マクロ経済学へのイントロダクション	
4/22	国民所得：生産、分配、配分	
5/6	貨幣とインフレーション	ビッグバンの概観について
5/13	開放経済	
5/20	景気変動のイントロダクション	経済構造改革と規制緩和
5/27	総需要Ⅰ（前半）	
6/3	総需要Ⅰ（後半）	
6/10	総需要Ⅱ	
6/17	総供給	香港返還、蘇州工業団地
6/24	短期の開放経済学	
7/1	経済成長（前半）	
7/8	経済成長（後半）	ベンチャービジネス
7/15	失業	

春の社会見学、前期ゼミを振り返って…過去2年は企業や工場への見学を兼ねた遠方での合宿という形での社会見学だったのに対し、97年度は近隣も近隣の北浜でしかも日帰りのコースという超安上がり（総計費4000円×2+3000円）&短期間（実質8時間程度）プランとなったのは残念無念なことだったし、更には新2回生の参加が少なかったことも問題であった。さて、北浜の実態は想像以上に惨憺たるもので、潰れかかった証券会社、取引所でゲー○ボーイをしているディーラーの姿、北浜には気温以上に寒くなるような光景がひろがっていた。

前期ゼミに突入すると前年のように離脱者が出ることはなかったものの、初期のうちは2回生を中心に遅刻、レジメ担当者の無断欠席もあり波乱の幕開けとなったが、しばらくたつうちにそれもなくなっていった。トピックの導入は先生の唐突な発言から始まったが、聞く方としては教科書よりは関心をもて、新鮮な感じを受けた。行事としては7/15に前期ゼミ終了コンパを祇園祭の“ど真ん中”で強行、就職の決まった4回生を交えて大いに盛りあがった。

※夏合宿…毎年9月の初旬ごろに、クラゲの漂ってそうな寒い海の近くで行われる恒例夏合宿。今年は9月6日から8日までの2泊3日で三重県賢島の大阪商工会議所賢島研修センターで関学とのインゼミに備えた欧州通貨統合についての実践的な詰めをテーマとした。夏休み中に参考文献の発表などを自主ゼミで既に行っていたためにゼミ内模擬ディベートを目標とした合宿となったが、まだ議論の中心点、本質について噛みあわすことができず、後期に行われるインゼミへの課題が明らかとなった。一方、4回生によるゼミ論のテーマ発表も同時に行われた。〔自主ゼミ用文献：国際通貨研究所編『欧州単一通貨ユーロのすべて』（東洋経済新報社）浜矩子著『EU経済入門』（日本評論者）、島野卓爾著『欧州通貨統合の分析』（岩波書店）、田中素香著『EMS：欧州通貨制度』（有斐閣）〕

※通常ゼミ（後期）…後期となると、2回生もレジメ作成の要領を得たようでスムーズなゼミ運営を続けることが出来た。後期の中でも特筆すべきは雑誌経済セミナーでもゼミ紹介の取材を受けたことであり、今後に大きな弾みをつけることとなった。後期の日程は以下のとおり、

日付	テキスト、ゼミ内容	トピック内容
10/7	マクロ経済政策論争	
10/21	リアル・ビジネスサイクルの理論	中国経済について
10/28	消費	アジア通貨危機の概略
11/4	政府負債をめぐる論争	
11/11	投資	国家システムを揺るがす米国経済の影響
11/18	貨幣供給と貨幣需要	企業年金の命運
12/2	インゼミ対策	
12/9		
12/16		
12/22	同大にて同志社大の藤原ゼミ、神戸大の藤田ゼミとの勉強会（2回生中心）	

※新規ゼミ生募集…年々少なくなりつつある本ゼミに意欲のある新生を入れることが本年度の課題でもあったので、なるべく多数の学部生を面接し、セレクションをしたうえで採用したいとゼミ紹介に力を入れた結果、13名希望の中10名（男6名、女4名）を選考で採用することとなった。くせのある人材が来ることは例年どおり（？）、ただ見所のある学生が多く、来年度の活気あるゼミが望まれる。

#夏合宿、後期ゼミを振り返って…今回、合宿の地となった賢島は京都から約3時間ほどの所だが本当に何にもないところで駅付近に定食屋を探すにも難儀した覚えがある。また、合宿所では先生がコンパで本領を発揮されたり、高橋さんが永久保存盤もののピンクレディを踊ったりと非常に濃い内容の2泊3日となった。

ゼミの後半は教科書の後半の発表もさることながら、ほぼインゼミがメインとなった。3回生がインゼミ委員を中心として結束することは例年通りだったが、今年は2回生は同大、神戸大の3回生との勉強会に2回生のみでのぞむこととなった。EU通貨統合というテーマに対して真剣にとりかかる時期がやや遅かったために、万全な態勢での勉強会とはいえなかったものの、他大学3回生相手にしての発表、レジメは勝っている点が多かったといえた。（余談だがこの勉強会の後の合同コンパでも先生は絶好調にとぼしていたらしい。）インゼミの話は猪俣君に譲るとして、新年会ではインゼミの勝利報告、新ゼミ長の発表が行われて無事ゼミの1年を締めくくることがとなった。（しかしその後腹痛を起こしたゼミ生が数名発生、“く〇しま”での寿司が原因と思われるが真相は不明）

※本年度ゼミ総括…一年を通じてゼミ内での勉強消化量は他ゼミに引けをとるものではないように思われる。3回生の頑張りはもちろん、2回生もインゼミが近づく後半になるにつれ参加意欲の向上が見受けられた。また、本年度は内容のあるインゼミ、経済セミナーの取材などゼミ全体にとっても大きな収穫があったように思われる。今後の課題としては、よりディベートに強く、内容のあるゼミとなるためにもゼミ内での積極的な質問、発言を増やすこと、各パートに分かれて担当箇所を発表するために自分の担当分しか予習してこないというのではなく、他の人の担当分もよく予習すること、まとまった休みなどには教科書を総括して復習し、知識の定着を図ることなど、ふだんからの各ゼミ生のゼミへの姿勢を拡充することでゼミから得ることは本当に多くなるであろう。やったけど忘れた、結果としてなにが解説してあったかよくわからない、ではせっかくのゼミも無意味になる。

後任のゼミ長は1年をつうじてゼミへの参加が積極的であった藤島君を指名することにする。久しぶりに10人規模の新生が入り、今後は大規模かつ個性の強いゼミとなるであろうが、強力なリーダーシップを発揮してこのゼミを率いていてもらいたい。最後に、ゼミ運営を常に見守り、ご指導して下さった岩本先生とTAの高橋さんに感謝しつつめくりたい。